資料２

議論のポイント

第２回議題「地域コミュニティの現状と課題」

１　前回の議論
次ページ

２　前任期委員会での議論
集わない活動化
マッチングとコーディネートの重要性
協働事業提案制度の拡張と継続、支援を通じた育成
市民活動推進プラザとまちづくり協議会の役割

３　「地域コミュニティの現状と課題」検討事項
地域コミュニティ組織の将来像、期待される役割
担い手を広げるために
みんなで地域を支えるために
（地域コミュニティが担うべき役割や他セクターとの関係性について）　　など

４　課題
区・自治会組織の現状
加入率の減少（担い手不足）
圏域（範域）
コミュニティ規模　　など

第1回協働のまちづくり推進委員会の議論（概要）

○担い手不足

・自治会が疲弊しているがＰＴＡも難しい局面である。ＰＴＡから自治会へという担い手確保の仕組みが崩壊しようとしている。また、若い世代は、テーマ型活動は参加するが、地域の組織は敬遠している。
・ニュータウンの自治会加入率は下がっている。若い世代の自治会運営への参加を促していく必要。
・自治会は高齢者が多く、活動もしにくいため、あまり人が集まらない。また、日常のつきあいが少ないので普段からのコミュニケーションが大切である。
・地域への女性参画については、地域で女性に役割を担ってもらえる場所を作り、地道に成果を上げることが行政に求められている。

○まちづくりの主体（市民、団体、企業、学校、行政等）をつなぐ

・市民団体と人を繋げる、若い世代、真ん中世代、高齢世代の連携を市が縦割りを排除して行うべき。
・市民活動団体が多くあるが、素晴らしい活動をしていてもその団体を知らないことがある。お互いの活動を知ることで活動に大きなプラスになるため団体同士や行政と団体のマッチングを行うべき。
・団体間の接点をつくる仕掛けを指針の中で検討するべきである。

○地域自治のあり方（制度）

・今のまま地域を持続しても制度的、仕組み的にくたびれており、指針の中で形を変える検討をすべき。
・自治会加入について、メリットがないのに強制的に加入者を増やしても地域が嫌いになる可能性もある。地域の自治が住民にとって意義あることなのか整理すべき。
・協働事業提案制度で様々な団体が提案されていることは、自治の面から非常に意味がある。一方で自治会は封建主義的組織が維持されている。市民活動の状況を見ると、今の自治会の仕組みを継続しない方が、自治会はむしろ機能し、楽しく活動できるのではないか。
・外部の市民活動団体が地域に入り、上手く地域の活動に参画できる組織の在りようを考えるべき。
・「協働の領域」について、市民に任せた方が良いことを行政が関わってしまう、行政が得意であることを市民にさせてしまうといった「協働の領域」の図とは異なることが行われている。
・少子化による学校の空教室について、コミュニティも一緒に学校を使い、子ども達を育むことができれば、新しい空き教室の利用や地域コミュニティの在り様のモデルとなる。

○交通

・買い物するのにも交通が不便で高齢者が住みづらい。
・バス自動運転が生活改善や環境改善にどれほど寄与するのか実験結果のデータを提供してほしい。

○市民活動のあり方

・市民の活動は、行政からのトップダウンではなく、市民が仕組みを積み上げて、必要に応じて行政の意見を聞くシステムが続可能的である。
・市民が主体となり行政という仕組みをツールとして動かす市民活動になっていくべき。